

とうきょう すくわくプログラム 活動報告書

園名	社会福祉法人村山苑 ひよし保育園
活動日時	令和7年12月19日(金)
クラス	くるみ組
年間テーマ	音楽、絵本

1.活動のテーマ

〈テーマ〉

音楽

〈テーマの設定理由(子どもの姿)〉

・武蔵野美術大学生のワークショップで、赤べこの製作をし赤べこになりきろうという活動を楽しむ姿があり、その活動のテーマに沿った歌を組み合わせることで興味を広げ、より豊かな表現につなげる。

2.活動スケジュール

12月18日 ワークショップ「みんなで赤べこになってみよう！」
12月19日 赤べこに変身して、童謡『べこの子うしの子』で赤べこに返信して遊ぶ

3.活動の為に準備した素材や道具、環境の設定

子どもが作った赤べこの衣裳、楽曲、オーディオ機器

4.探究活動の実践

〈活動の内容〉

赤べこに変身して、『べこの子うしの子』の歌と共に遊ぶ

〈活動の中の子どもの姿や声、子ども同士や保育者との関わり・写真〉

- ・前日の活動を思い出して「赤べこになりたい」と保育者に要望を伝える子どもの姿がある。
- ・童謡のリズムに合わせて四つ這いをしたり、「もうもう」という言葉や音のもしろさを聴いて、赤べこのマネをして首をゆらゆらしてそれぞれが自分なりの表現を楽しんでいる。
- ・見る参加の子どももいる。



5.活動振り返り〈振り返りによって得た大人の気づき〉

ワークショップ中には、大学生が太鼓で拍子をとるのを見て、夏に作った太鼓をたたいて演奏する子どもの姿も見られ、音楽活動の連続性が見られる。ワークショップで実物の赤べこの民芸品に触れさせてもらったことで、首の動きのおもしろさに気づき、それがあったからこそ、子ども自身が赤べこになりきろうという自発性が見られた。また、赤べこの衣裳を子どもたち自身が製作することで、それを着て遊びたいという意欲につながっている。

牛の童謡を聴くと、更にイメージを広げて赤べこになりきるのを楽しんでた。赤べこと童謡と合わせることでより日本文化に親しむ活動になった。

1